

令和4年度
広島県瀬戸内高等学校推薦入学試験問題

国 語
(50分)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験番号	
------	--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

きちんとした説明、プレゼンテーションには、言語技術を身につけることが必要不可欠だ。言語技術の基礎があつてはじめて、「ハーバード白熱教室」ができる。サンデル教授と学生の質問が噛み合つて進行していくのは、ルールに則^{のっと}つていからである。ルールが広く国民に浸透していけば国力の底上げにつながるわけではない。

残念ながら「言語技術」というカテゴリーを、先進国では日本だけがもっていない。スポーツと同じで、言語にも技術の習得が必要なのだ。

テニスもスキーも空手も、基本的なことを習うところからはじめる。僕は、長野生まれだからスキーは^{※2}無手勝流^{むてかりりゅう}でやつていたけれども、大人になつてからあらためて基礎を習つてみるとa^{※3}ジョウタツ^{じょうたつ}の仕方が全然違つた。テニスも初級講座からやつたし、空手も入門時は白帯で基礎を何度も何度も繰り返した。やはり、基本的な技術を習得しなければ、スポーツをうまくやることはできない。①言語も基本は技術である。

優秀な人材が揃つているはずの都の職員でも、報告書がつかれなかつたり、他人への説明を難しくしすぎてしまつたりするケースが目立つようになってきた。だからと説明をする人がいると思わず「結論から言いなさい」と、テーマを絞るよう忠告する。

つくば言語技術教育研究所長の三森^{※4}ゆりかさんは、日本における「言語技術」教育の第一人者である。彼女の手がける講義では、たとえば複数の家具が置かれた部屋の^{※5}俯瞰^{ふかんす}図を見て、その配置を文章でいかにわかりやすく説明できるかというテストが行われる。

ほとんどの受講生は、「扉を開けると正面にテレビがあります」というように、部屋のドアを開けて真正面にあるテレビから説明をはじめ。《 》、それでは「テレビの右側には本棚があります。その反対側にはタンスがあります」と、説明があつちに行つたりこつちに行つたりして、聞き手は部屋の空間を映像として把握することができない。

(中略) 欧米の言語技術教育では、こういう場合に時計回りで説明することを小学校のときから徹底して教えている。時計回りに「ドアからソファ、タンス、テレビ、本棚……」と説明すれば、映像がパツと頭に浮かぶ。よい文章は、必ず映像が浮かぶ。聞き手もb^{※6}容易^{りようい}に部屋の空間を想像できる。

僕は作家として言語技術をc^{※7}ミガ^{みか}いてきた。風景を言語だけでI^{※8}として伝えなければならなかつたからだ。風景を伝えるには、形容詞をいくら重ねてもわからない。空間を構成的にとらえて、論理的に説明する必要がある。そうすると色や形など^{※9}ディテール^{ディテール}の存在感が増してくるので、結果的に感性でとらえているな、と思われるのである。ただ感性だ、感性だ、と強調しても、感性が研ぎ澄まされるわけではない。

いま、若い人全般に見られることだが、会話で「この曲、好き？」と聞かれると、「ふつう」というように、やりとりになつていない。言語力がd^{※10}劣化^{りゅうか}している。単語だけでつながっていくような表現が、いまどきのかっこいいものだと思われているが、間違っている。まずは何を言いたいのかということをはつきりさせて、結論とその根拠を述べながら伝えるためにどういう技術が必要なのか、ひとつひとつ身につけなければいけない。言語技術は芸術と②矛盾すると勘違いされるが、それはほんとうに大きな誤りであり、基礎的な技術がなければ個性は発揮できない。基礎訓練なしに個性だ、個性だ、と言い過ぎてい

る。

三森さんから、③ドイツの国語教育事情を説明してもらった。

スポーツと同じように技術はトレーニングである。説明・描写の技術、報告の技術、議事録の記述技術、要約の技術、絵やテキストの分析と解釈・批判の技術、論文の技術、議論の技術、ディベートの技術、プレゼンテーションの技術と多くの時間が割かれている。日本の国語とは時間数も密度も較べものにならない。

生きていくために言語技術は必須と思われるからだ。「なぜ？」という問いに対し、「なぜならば」という答えを10個くらいは考える。そこではじめて、論理的な文章ができてくる。あたりまえのこととして訓練されている。

絵画を見たときに、「とても素晴らしい」とか、「いい絵だ」とか、形容詞は極力使わないほうがいい。「うれしい」「可愛そう」「悲しい」など形容詞は、何も言っていないのと同じことなのだ。「どんな色が使われているか」「描かれた人物は何をしているのか」「何時ごろなのか」というファクトをならべていく。

学校の授業で絵画の展覧会に行くと、ドイツでは先生が生徒に疑問を投げかけて、絵画について議論をする。④生徒も自分では見えていなかったものが見えてくる。生徒にいろんな議論をさせることが、先生の仕事になっている。

鑑賞している絵画には登場人物が何人いて、背景に何が置かれていて、と説明することによって鑑賞する力が備わっていく。直感的に自分がいいと思ったことが何なのかはわかってくる。きちんと相手に説明する。こうした力が言語技術なのである。

日本では、絵画の展覧会に行っても、生徒は黙って前を通り過ぎるだけだ。先生が絵本を読んで聞かせるケースはあるが、論理的に質問をする習慣がない。だから、先生から質問されて、とっさに生徒は「わかんない」などと言ってしまう。

三森さんは、絵画を鑑賞させようとして、**II**に感想文を書かせている日本の中学校の事例を紹介してくれた。日本の中学生でも、意識的に訓練すれば、十分に読解力を身につけることができる。

(猪瀬 直樹著 『言葉の力』を一部改題)

※1 ハーバード白熱教室 | ハーバード大学のサンデル教授が講義で生徒と論理的に議論するテレビ番組。

※2 無手勝流 | 自己流。

※3 俯瞰図 | 上から見た大局的な視点など。高所から地上を見おろしたように描いた図。

※4 デイテール | 詳細。

問一 く a s d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア しかし イ だから ウ なぜなら エ たとえば

問三 **I** **II** にあてはまる語を **I** は漢字二字で、**II** は漢字三字で文章中からそれぞれ抜き出して書きなさい。

問四 ①「言語も基本は技術である。」とありますが、筆者が考える言語技術の基本の具体例を、解答欄にあうように文章中から六字で抜き出して書きなさい。

問五 ②「矛盾」と同じ構成の熟語を次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 失恋 イ 寒暖 ウ 欠乏 エ 諮問

問六 ③「ドイツの国語教育事情」について次の問いに答えなさい。

i ドイツは言語技術に対してどのような考えをもっていますか。文章中から二十二字で抜き出して書きなさい。

ii ドイツの授業にあつて日本の授業にない習慣は何ですか。文章中から十一字で抜き出して書きなさい。

問七 ④「生徒も自分では見えていなかったものが見えてくる。」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 絵画から読み取れるファクトをならべること、自分が直感的にいいと思ったことを理解できるようにすること。

イ 絵画に描かれているものがファクトかどうかを見分けられるようになり、他人に伝える力が身につくから。

ウ ドイツでは先生が生徒にさまざまな議論をさせるため、その議論の中で他人の意見に触れることができるから。

エ ドイツでは言語技術を習得するために、自分で疑問を持つことは当たり前だと考えられているから。

問八 文章中で筆者が述べていることと合致するものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア ドイツの国語教育事情は時間数においては優れていて国際社会から評価を受けているが、密度に関しては日本の国語教育と大きな差がないといえる。

イ 日本人が他人への説明や報告書を作成することが得意な理由として、言語に関する基本的技術を習得する条件が整っていることがあげられる。

ウ 現在の若い世代の会話は表面的には言語力が劣化しているように見えるが、実際は単語をつなげる表現力や直感的な感性が優れている。

エ 欧米の言語技術教育では部屋内の複数の家具を説明するとき、時計回りで説明するやり方を小学校教育からしっかり教えている。

問九 高校生のAさん・Bさん・Cさん・Dさんは課題に取り組むために、図書館を訪れることになりました。次の四人の会話をふまえて、後の問いに答えなさい。

Aさん 「久しぶりに図書館に行くね。」

Bさん 「うん、課題のために必要な本をリストにしてみたよ。」

Cさん 「さすがBさん！ でも、どうやって本を探したらいいんだろう？」

Dさん 「確か、図書館に入って右側に手指の消毒が置いてあって、その左隣に本の検索のパソコンがあったと思う。まずそれで調べてみたらいいかもしれないね。」

Aさん 「前に行ったのはずいぶん前になるから、図書館の配置が変わっているんだね。そのパソコンの横には何がある？」

Dさん 「確か、絵本のコーナーがあったと思う。その左隣には事典等が置いてあって、さらにその左隣にはソファがあったね。」

Bさん 「そうそう、事典等の奥に小説やさまざまな書籍が置いてあったから、必要な本はその辺りにあると思う。その横には、机とイスがあったね。」

Aさん 「そうだったね！ パソコンで検索して分からなかったら、司書の方に聞いてみた方がいいよね。」

Cさん 「入り口付近に受付があって、その近くには地域に関連する本が置いてあったと思う。その先の受付に司書の方がいたと思う。」

Dさん 「じゃあ、今から行こう！ AさんとBさんは電車で、Cさんと私は自転車で行くことになるね。」

Aさん 「待ち合わせしておいた方がいいよね。どこがいいかな。」

Bさん 「図書館の前に時計台があったね。その周りに文化センターとベンチがあって、ベンチの横が図書館の入り口だったね。」

○ 図書館の空間を映像的に把握することができる説明をしている人は誰ですか。最も適当なものを次のア～クの中から選び、その記号を書きなさい。

ア Aさんのみ

イ Bさんのみ

ウ Cさんのみ

エ Dさんのみ

オ AさんとBさん

カ BさんとCさん

キ CさんとDさん

ク AさんとDさん

【二】次の文章を読んで、後の問いに書きなさい。

谷口は役場の収入役という職に就いている。玉緒たまお、智さとし、祐加ゆか、昇のぼるの四人の子供がいる。長女玉緒が大阪の工場に就職をする前日、町の写真館に家族写真を撮りに行った。数日後、撮影写真が自宅に送られてきた。

写真が届いた。祐加がまっさきに、胸のへんのケチャップのしみの a 有無をたしかめた。きれいに消えている。祐加は I をなでおろした。智は背筋を伸ばし、上を向きかげんにして館主の指先をにらんでいた。昇は笑っていた。* スカイライトが、玉緒の柔らかな髪の毛の数本を光らせる。玉緒の左手の先が父親の右肩にそっとかかっているのを、父親はいまはじめて発見した。

「みんないい顔してるよ。撮ってよかった」

夕食中も食卓の端の、味付海苔のりの缶にたてかけておかれ、みんなが寝る段になってやっと母親がそれをタンスの抽斗ひきだしにしまった。

「あれ、写真館に飾ってもらえないかなあ」

智がふとんの中で昇に囁ささやいた。

「むりだよ」

昇は ① 智の野望のぼりをせせら笑った。

* 手札判の一枚は玉緒に送られた。古田写真館から電話がかかってきた。谷口の写真を展示したいというのだ。久しぶりに撮れた完璧かんぺきな家族写真だ。谷口は b 即座に断わろうとしたが、これまでも何かあるとみんなと相談して決めてきたことを思い出し、考えさせてくれといって電話を切った。話をきくと、三人の子供は興奮した。母親は特に意見をいわない。電話で玉緒に問い合せると別にかまわないという。多数決で、谷口の家族写真は古田写真館の窓を飾ることになった。

子供たちは、早く町へ、自分たちの写真が飾られているところをみに行こうとせがんだが、父親は急がなかった。何かのついででよい。それを最初にみえたのが、昇の同級生の兄で、青年団長の吉井徹だった。写真館の前を通りかかると、ふと ② どこかで見覚えのあるものが視野の端を横切った。暗がりでは束がたった一本の花にみえるように、II 人がなじみのひとりの顔として映った。立ち止って、引き返し、それが写真館の窓の中にあることを発見した。近づく、谷口の家族だった。

村中に知れ渡った。町に出た者は、わざわざ古田写真館まで回り道をしてみてき、みてきたことを村人に * 吹聴した。一カ月もたつと、村の半分以上の人間がその写真をみていた。役場で、職員や、やってきた村人にそのたび写真のことを口にされると、谷口は、写真館が勝手に飾ってしまった、c ゴマごまったこ

とだ、と言いつくした。

③ 谷口の子供たちはじりじりした。何度も子供たちだけで行くという冒険計画が練られたが、思い切ることではできなかった。

収入役は④できればあんなものはみないうちに展示窓から消えてほしかった。三十キロ以上も離れた町の写真館の小さな窓から、いつも自分の家族が覗きこまれているような気がしてならなかった。

しかし、収入役はどうしても仕事で町に出なくてはならなくなった。ひとりで行って、写真はみないで帰ってくるつもりだったが、家族のだれもそれを信じない。みんなには禁止しておいて、ひとりだけこっそりみてくるつもりだろうが、そんなことは許せない。父親はしかたなく、役場のマイクロバスに家族を便乗させることにした。

写真の前に立ったとたん、三人の子供は歓声をあげた。送られてきたものより、それは三倍に引き伸ばされて窓を飾っていた。全員が、ちやうど写真と向いあう形に並んだ。鏡に映したのと同じだ。しかし、⑤完全な対称ではない。向いの写真の中、父親の背後、昇の隣にいる玉緒は、こちら側にはいなかった。窓の中では、玉緒の左手の先が、そと父親の右肩にかかっている。五人の胸に、玉緒のいない淋しさが募った。

明るい、優しい、えくぼのある顔を玉緒はこちらに向けていた。この表情の d シュンカン、いま、わたしはしあわせよ、と彼女は念じたのだ。収入役は思わず、しあわせになれよ、と写真の中の娘に向かって呼びかけた。そのとき、⑥彼女の指がそと自分の肩に触れたように感じて、振り返った。もちろん、そこに玉緒はいなかった。そのあたりの地面で、雀が光を浴びて騒いでいた。

(辻原 登著 『家族写真』より)

※1 スカイライト | 大型の照明ライトのこと。

※2 手札判 | 写真のサイズのひとつで、手札くらいの大きさのこと。

※3 吹聴 | 言いふらすこと。

問一 | a、d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 | I にあてはまる体の一部を漢字で書きなさい。

問三 | II にあてはまる漢数字として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 三 イ 四 ウ 五 エ 六

問四 | ①「智の野望」とはどのようなことですか。その内容を二十字以内で書きなさい。

問五 ②「どこかで見覚えのあるもの」とは何ですか。その内容を文章中から五字以内で抜き出して書きなさい。

問六 ③「谷口の子供たちはじりじりした。」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 街から三十キロも離れた場所に住んでいるために写真館に行けず、不自由に改めて嫌気がさしたから。

イ 自分たちの写真が飾られているのに街に行く機会がなく、なかなか見に行くことができなかったから。

ウ せっかく自分たちの写真が飾られているのに、父親があまり気に入っていなかったから。

エ 自分たちの写真が飾られているのに、見られないまま写真が片づけられるのではないかと不安になったから。

問七 ④「できればあんなものはみないうちに展示窓から消えてほしかった」とありますが、それはなぜですか。文章中から三十字で抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問八 ⑤「完全な対称ではない」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 写真は三倍に引き伸ばされており、左右対称になっていないから。

イ 玉緒の左手が谷口の右肩にあることで左右のバランスが崩れているから。

ウ 撮影時よりも子供たちが成長しており、完全な対称の構図にはならなかったから。

エ 撮影された写真を見たときには、既に玉緒は実家を出ていたから。

問九 ⑥「彼女の指がそつと自分の肩に触れたように感じて、振り返った」とありますが、谷口はなぜ玉緒の指が自分の肩に触れたように感じたのだと思いますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 集合写真を見て、まだ家族が離ればなれになっていなかった幸せな頃を思い出したから。

イ 玉緒が家族の淋しさを少しでも減らし、谷口を元気づけようとしていると感じたから。

ウ 遠くで家族と離れて暮らしている玉緒が、淋しさのあまり助けを求めているような気がしたから。

エ 離れて暮らしているも家族の心はつながっており、玉緒の幸せを祈る自分の思いは届いたと感じたから。

問十 谷口は写真館からの家族写真の展示依頼をすぐに断りませんでした。その理由となる箇所を、解答欄にどのように文章中から二十三字で抜き出し、最初と最後の三字を書きなさい。

問十一 谷口の家族は、自分たちの家族写真が写真館に飾られることについて、「飾られている写真を見たがった」、「飾られている写真を見たがらなかった」、「どちらでもない」の三つのとらえ方がありました。「飾られている写真を見たがった」人物を全て書きなさい。

問十二 写真館の「谷口家の家族写真」は村中に知れ渡ることになりましたが、それを最初に見たのは誰ですか。その人物を文章中から十字以内で抜き出して書きなさい。

問十三 文章の内容と合致するものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア 谷口は写真館の家族写真を外すために、こっそり一人で出かけた。
- イ 谷口は写真館の家族写真を見に行ったことで娘の存在を感じた。
- ウ 谷口は写真を飾ることについて家族と口論になり、後悔した。
- エ 谷口は家族写真が飾られたことを誇りに感じ、周囲に言いふらした。

【三】次の問いに書きなさい。

※1 下野の国に男女すみわたりけり。年ごろすみけるほどに、男、妻まうけて心かはりはてて、この家^{いへ}にありける物どもを、今の妻のがりかきはらひもてはこびいく。①心憂しと思へど、なほまかせて見けり。ちりばかりの物も残さず、みなもていぬ。ただ残りたる物は、※2馬ぶねのみなむありける。
(数年が経った時に、男は別の妻を作って)
(新しい妻のところへ全て)

それを、この男の従者、※3まかちといひける童使ひけるして、このふねをさへとりにおこせたり。この童に、女のいひける、「きむちも今はここに
(懐けない)
(お前ももうこれから二人は)

見えじかし」などいひければ、「などてか、さぶらはさらむ。
(来ないでしようね)
(うかがわないことがありますか。いや、ない。)

聞えは申してむや。文はよに見たまはじ。ただことばにて申せよ」といひければ、
(申し上げたら伝えてくれますか。)
(決して御覧にならないでしょう。口伝えて申し上げてください)

「いとよく申してむ」といひければ、かくいひける。
(確実に、申し上げるつもりです)

「②ふねもいぬまかちも見えじ今日よりはうき世の中をいかでわたらむ

と申せ。」といひければ、男に③いひければ、物かきふるひいにし男なむ、しかながらはこびかへして、④もとのごとくあからめもせて添ひるにける。
(もとのようにほかの女に心を移すこともなく、この女と一緒にいた。)

『大和物語』より)

※1 下野の国 | 現在の日本の栃木県のあたり。

※2 馬ぶね | 馬の食料を入れる木などの桶。飼馬桶ともいう。
かいばおけ

※3 まかち | 召し使いである少年の名称。

※4 ぬし | 主人、だんなの意味。

問一

「かはりはてて」を現代かなづかいに直して書きなさい。

問二

①「心憂しと思へど」とありますが、誰がどのようなことを情けなく感じたのですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 男が、生活が厳しくなったため引つ越さざるをえないことを情けなく感じた。

イ 男が、新しい妻の元へ行くことを妻に止めてもらえないことを情けなく感じた。

ウ 女が、夫が家財道具を新しい妻のもとへ運ぶことを情けなく感じた。

エ 女が、夫が家財道具を別の場所へ移すことを手伝えないことを情けなく感じた。

問三

②「ふねもいぬまかちも見えじ今日よりはうき世の中をいかでわたらむ」とありますが、この和歌で表現されている心情として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 馬ぶねもまかちも自分のもともとから去ってしまうため、さみしさのあまりにあふれる涙を止められない辛さ。

イ 壊れた馬ぶねを直してくれるまかちが帰るため、これからどうやって馬ぶねに乗ればいいのか分からない戸惑い。

ウ 馬ぶねもまかちも見ることができないため、これからどのように生きていったらいいのか分からないという嘆き。

エ 馬ぶねに乗ってまかちが出発するため、一人取り残されて今日からどのように過ごせばいいのか分からない悲しさ。

問四

③「いひければ」の主語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 男 イ 童 ウ 女 エ 馬ぶね

問五

④「もとのごとくあからめもせで添ひるにける」とありますが、なぜそのような結果になったのですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 馬ぶねを市場で売却する用事が済んだから。

イ 馬ぶねを童が取りに行つて満足したから。

ウ 歌を伝言しに行つた童に怒られたから。

エ 歌によって女の気持ちを理解したから。

問六

文章の内容と合致するものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア 男は女と顔を合わせるのが気まづいため、自分の従者に馬ぶねを取りに行かせた。
- イ 男は女の元を離れる際に、自らの船を用いて荷物と馬を運んだ。
- ウ 従者は主人が手紙を読まないと考え、氣を利かせて女の思いを直接伝えた。
- エ 男は女の歌を聞いて、自らの荷物を送り返して女の元へ戻った。



